

# 反動の嵐に抗して！

2011年  
6月5日  
No.14

JR 東海労働組合  
台車検査車両所分会  
発行者 西村泰弘  
編集 教宣部

## 軸受異種混入は解明されたか？？

3月1日に台検で発見された「車軸軸受異種混入」に関する業務委員会が、ようやく5月30日に開催されました。しかしその詳細のいつにはほとんどが「明らかにするつもりはない」という回答ならざる回答に終始しており、事故の原因究明と再発防止を積極的に行おうという姿勢は見て取れません。（関西業務ニュースNo.163号参照）

軸受のメーカー、製造年月、ロット番号等について会社は

【回答】明らかにするつもりはない

なぜ明らかに出来ないのでしょうか？現場ではすでにメーカー等は分かっているのに、明らかに出来ないのは何らかのメーカーとの癒着があるのでしょうかと考えられません。また他編成について同様の事象の有無については

【回答】同様の事象は確認されていない

と回答していますが、いつ確認したのでしょうか、確認するには車両の運用を打ち切り、軸箱を解体し検査するしか方法はありませんが、そのような目的で台車交換された事実はありません。さらに軸受メーカーでどのようにして異種のコロが混入したのかは一切明らかにされていません。

## 6月1日の総点呼の摩訶不思議！

6月1日の総点呼で水津所長は、軸受の異種混入について異種混入を起こした軸受メーカーに行き調査して来たことを述べました。内容は、メーカーの社員から丁寧な対応を受けたこと、異種混入を啓蒙するポスターが貼ってあったことや、社内の様子などを紹介しました。しかし、不思議なことに一番肝心の**「なぜ異種のコロが混入したのか、混入しない対策をどのように行なったのか」**は支社と同様全く報告しませんでした。社員からは「原因がさっぱりわからない」「メーカーではちゃんと掲示してるんですね」などと感想を漏らしていました。

会社は「必要な社員に対して、必要な事柄を伝えている」と回答していますが、未だに不良軸受の写真も公開されず、軸受の検査に携わる社員にも詳細は何も伝えられないばかりか今回の事象を踏まえての検査の注意点も知らされていません。

「他山の石」はおろか足元の石さえも教訓化出来ないのでしょうか？それとも他者に学ぶのは社員管理の強化だけだとしたら、事故を撲滅することはほど遠いのではないのでしょうか？おかしいことにはおかしいと職場から声を上げていきましょう！！